

# 多様性とVEの進化

首都高速道路株式会社 代表取締役 専務執行役員  
寺山 徹



写真提供：首都高速道路(株)

## ■ 多様性

昨今、高速道路を取り巻く環境は著しく変化している。構造物の高齢化、デジタル革命の加速、地球温暖化対策等、直面する課題に対応する高速道路の進化や変革が求められている。高速道路を単に「造る」「運営する」だけではなく、新たな付加価値を創造し、提供することが必要とされる時代である。

2021年夏には「多様性と調和」を基本コンセプトの1つとして掲げた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催された。弊社ではこの世界的な大会において、大会輸送と都市活動の両立を旗印として、大会組織委員会をはじめとする関係各所と連携することで大会の成功に大いに貢献した。

日々直面している課題と向き合いながら、このオリンピック・パラリンピックが掲げた基本コンセプトに思いを巡らせたとき、この「多様性」がまさしく新たな時代を切り開く1つのヒントではないか、すなわち、多様な人が集まり、共通の課題に取り組むことこそが、より高い次元のソリューションにつながるの考えを強くした。

人は類似の考え方の仲間には囲まれていると安心するが、新しい価値創造には、一人ひとりがお互いを認め合いながらも視点の異なる者のアイデアが必要となる。オリンピックで応援したスポーツを例にとると、リレーのような競技であれば、足の速い選手を集めれば勝てるだろうが、より複雑系のスポーツ、例えば、サッカーチームに久保建英が11人いれば、優勝できるだろうか？

昨今を取り巻く複雑系の問題の場合、同類の優秀な人を多数集めても、思想が同じクローン集団では対応できない。互いにリスペクトしあいながらも、異なる視点を持つ者をいかに組織化していくかが、会社を経営し、発展させていくうえで重要な課題となるのである。

## ■ 首都高速道路におけるVE活動

弊社のVE活動は2002年より開始し、約20年経過した。その間、社内にVE専門家を育成し、インハウス化の拡大を図ってきた。弊社が提供する製品・サービスには1つたりとも同じ製品・サービスはなく、各現場の状況においてその最適解を、VE活動を通して見いだしてきた。

毎年のVE全国大会でも事例発表を行い、2011年にはVE思考が全社規模で浸透していることに加え、道路建設・維持管理に関わるコスト削減だけでなく、機能・安全性の向上を図るとともに、利用者サービスの向上につなげている点が高く評価され、マイルズ賞特別賞を受賞し、その活動は着実に実を結び発展してきた。しかしながら、これらのVE活動はテーマや参加者ともに、主に土木等技術の分野での活動として行ってきたものであった。

## ■ VEの進化

このような状況の中、2020年度からはIT分野や働き方改革に関する課題に対し、これまで技術者の視点だけで取り組んでいた弊社のVE活動においても、総務・人事部、財務部といった異なる分野の職員に参画してもらっている。技術者の視点だけではなく、違った視点を持つ者の参画は、まさに多様性を踏まえた試みである。これまでとは異なる視点で取り組んでいくことで、より進化したVE活動となることを期待している。

弊社の基本理念「私たちは、首都圏のひと・まち・くらしを安全・円滑な首都高速道路ネットワークで結び、豊かで快適な社会の創造に貢献します」の達成に向け、これからの時代に適応した新たな価値を創造するため、VEの進化を目指していきたい。(表紙写真「レインボーブリッジ」提供：首都高速道路(株))

(筆者は当会理事)